

# まのみ

第71号 2025. 1



福島県土地改良団体職員連絡協議会



# 目次

新年のごあいさつ……………	福島県土地改良団体職員連絡協議会…	3	勤続10年表彰を受けて……………	伊達西根堰土地改良区……………	11
会 長 石川 博利			10年の勤務を振り返って……………	鮫川堰土地改良区……………	12
専務理事 菊地 和明			あれから10年……………	水士里ネット福島……………	13
M(水士里ネット)ブランドって必要なの?…福島県土地改良事業団体連合会…	4	年男・年女	年男の年を迎えて……………	会津中央土地改良区……………	14
第48回総会……………	5	年女の抱負……………	阿武隈川上流土地改良区……………	二瓶 剛史	14
退任にあたって……………	福島県土地改良団体職員連絡協議会…	8	抱負……………	水士里ネット福島……………	15
前会長 五十嵐 賢一			干支が一回り……………	会津若松市湊土地改良区……………	15
永年勤続			巳年の新たな成長……………	会津若松市湊土地改良区……………	16
永年勤続表彰受賞を受けて〜農地整備事業の成功に向けて〜	白河市土地改良区……………	9	相撲好きな年男……………	会津大川土地改良区……………	17
20年が経ち……………	郡山市東部土地改良区……………	9	新年の抱負……………	水士里ネット福島……………	17
勤続30年を迎えて……………	杜川沿岸土地改良区……………	10		鈴木 友理子	17
永年勤続30年を振り返って……………	水士里ネット福島……………	10		芳賀 章平	17
	富田 秀樹			渡部 恵美子	17
勤続10年を迎えて……………	安達疏水土地改良区……………	11		鈴木 けい子	16
	三瓶 甚一			宗形 勇輝	15
				中山 智子	15
				佐藤 優祐	13
				大平 理恵子	12
				浅野 大輔	11

新会員のみなさんより

よろしくお願いいたします。.....富岡町土地改良区.....

坂本 頼我

よろしくお願いいたします.....会津北部土地改良区.....

生江 久子

未熟者の私ですが.....請戸川土地改良区.....

天野 光利

よろしくお願いいたします.....水土里ネット福島.....

佐藤 汐織

今年1年と今後の抱負.....水土里ネット福島.....

和田 歩夢

よろしくお願いいたします.....水土里ネット福島.....

福田 知季

土地改良区職員となり.....中島村土地改良区.....

山田 翔太郎

はじめまして.....鮫川堰土地改良区.....

高橋 俊輔

ご挨拶と今後の抱負.....水土里ネット福島.....

大河原 誠大

よろしくお願いいたします。.....母畑地区土地改良区.....

志賀 智秀

よろしくお願いいたします.....福島市土地改良区.....

神藤 卓也

よろしくお願いいたします.....駒形土地改良区.....

兼子 麻子

日々レベルアップ.....阿賀川土地改良区.....

小林 咲希

土地改良区の職員となって.....福島市土地改良区.....

佐藤 汐萌実

土地改良区の職員となって.....福島市土地改良区.....

笹木 美沙

よろしくお願いいたします.....会津北部土地改良区.....

花見 龍之介

24

23

23

22

22

21

21

20

19

19

18

18

26

25

25

24

# 新年のごあいさつ



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 石川 博利

新年明けまして、おめでとうございます。

会員の皆様には、令和七年の新春をご健勝にてお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。本協議会の事業運営も少しずつ以前の活動に戻りつつありますが、様々な感染症対策が必要な状況であり、気遣いの多い日常となっております、ご推察いたします。

令和六年一月一日の夕刻に発生した、「能登半島地震」では、福島県内でも震度四を観測した地点もあり、能登半島地域の被害の甚大さを報道で目の当たりにし、心を痛めたことと思います。発生から一年となりましたが、被災された方々に深くお見舞い申し上げ、今も必死に復興に取り組んでいる関係者の方々のご努力への敬意と、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

最近、異常気象、そして過去に例を見ない等の言葉を頻繁に耳にするようになりました。天候に左右される農業に係る者として、農作物が順調に生育し、無事に収穫できること、そのための用水確保や施設の維持管理という重責を担っている会員の皆様においても、気が休まることのない日々が続いていることと思います。

令和五年度の水稻の減収と、令和六年度においても、四月から平均気

温が高い状況が続いて、生育が心配されました。

その様な中で、米不足が報道され、「令和の米騒動」とまで言われ、当地域においてもスーパーの棚から米がなくなると言う状況がありました。様々な要因があると思いますが、明確な答えは分かりません。

食料・農業・農村基本法の第二条に、「食料については、人間の生命の維持に欠くことができないものであり、かつ、健康で充実した生活の基礎として重要なものであることに鑑み、将来にわたって、食料安全保障（良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれ入手できる状態をいう。）の確保が図られなければならない。」とあります。ほぼ一〇〇%の自給率である米が入手出来ないことが、あつてはならないはずですが、米の安定供給は、生産者も同様に望むところですが。

当地域にも、長年の経験を活かして、後進の育成に励んでいる農家、親子で頑張っている農家もいます。また、若い後継者が最新の機械の利用に組み込んでいます。

私達土地改良区は、その様な組合員の方々に支えられ、毎日の業務を全うすることが出来ていると思います。

土地改良区は、前述のとおり生産に不可欠な用水と農業施設の維持管理を担っています。本会事業が皆様の業務の一助となり、また、情報交換の場として活用できれば幸いです。皆様からのご意見を伺いながら、会長を務めさせていただきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、昨年の総会で退任された五十嵐前会長、前役員の皆様のご尽力に敬意を表し、深く感謝申し上げます。

## M(水土里ネット)ブランドって必要なの？



福島県土地改良事業団体連合会

専務理事 菊地和明



皆様、新年おめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。本年が皆様にとってよき年でありますようにお祈り申し上げます。

最近テレビで、ほぼ社名のみでCMが目立ちますね。例えばTOPP AN(大泉洋)やAGC(広瀬すず)、JFE(サンドイッチマン)、ニデック(川口春奈)などです。放送時間帯や回数により幅がありますが、広告費用は制作費と放映料を合わせると数千円から数億円にも及びます。一体これだけの金額に見合う効果はあるのでしょうか？もちろん、答えはYESです。多くの場合、知名度が向上することにより株価や受注額への影響、そして今、誰もが苦労している人材獲得などで大きな成果があり、このブランド力の重要性は今後さらに高まると言われています。

昨年は、改正食料・農業・農村基本法が成立し、私たち水土里ネットに対する期待は過去最大と言って良いほど高まっていますね。これは、世界情勢や地球温暖化を受け、これまでの自給率四割弱で、経済界が国民を食わせていける、という永田町や霞ヶ関の神話に異論が集中したためであり、基本法に続いて、今回の通常国会で土地改良法を改正し(予定)、それを実現するための新たな施策展開の軸のひとつが土地改良

区・土地連、というわけです。

新たな施策の詳細は間もなく見えますが、象徴的なものが「水土里ビジョン」。地域の体力低下を補完するためにこれまでの垣根を越えて連携してもらおうという動きで、ビジョン策定と関係事業、多面的機能支交付金の「広域活動支援」加算、適正化事業の地域連携等強化事業などが新たに創設されます。決して悪い話ではなさそうですが、また何をさせられるの？と不安が先に立ちますね。詳しくは、別の機会で。

そして、私たち水土里ネットが、地域のため国民のために日々頑張っているのに、水土里ネットへの公的支援が弱い原因のひとつが知名度(Mブランド)だと言われています。

確かに、関係者は誰もが知る土地改良区や土地連も、他業界ではほぼ無名です。知名度アップのため何億円もかけCMに躍起になる企業があるのですから、水土里ネットがどのように地域のために努力しているのかをPRし、Mブランドを強化することは、地域の役割や魅力が理解され、人材が集まり、しっかりと公的支援を受けながら効率的な運営ができることにつながります。改めて、日々の業務とともに、私たちでできる限り力を合わせ、外側へ、そして内側にも、しっかりとPRしていきましょう。

振り返ると、昨年の福島県は比較的平穏無事でした。ただ、元日の能登半島地震でスタートしたために、何か不安感が払拭できない一年でしたが、今年は大過なく、皆様がたくさんの「幸福」を感じることができるとよい年となるよう願うばかりです。

# 第48回総会

第48回総会は、令和6年7月29日（月）郡山市「ビッグパレットふくしま」において開催されました。

五十嵐賢一会長（会津若松市湊土地改良区）より挨拶があり、続いて永年勤続者表彰が行われました。代表の方に会長より表彰状が授与され、併せて記念品が贈呈されました。



会長挨拶

表彰された方々は別頁のとおりです。受賞者の皆様の御健康と益々の御活躍をお祈りいたします。



来賓祝辞

表彰式後、来賓の福島県土地改良事業団体連合会参事家久来克之様より祝辞をいただきました。議長に五十嵐会長が選出され、議事に入りました。

議案第1号「令和5年度事業報告の承認について」、議案第2号「令和5年度収支決算の承認について」が一括議題として出され、事務局の説明、渡辺浩彰代表監査員（大玉土地改良区）の監査結果報告の後、承認されました。

議案第3号「令和6年度補正予算（案）について」、議案第4号「令和7年度会費・協賛金の額及び徴収方法（案）について」、議案第5号「令和7年度事業計画（案）について」、議案第6号「令和7年度収支予算（案）について」は質疑応答の後、承認されました。

議案第7号「役員改選については、各分部より新役員が選任され、また、会長、副会長、代表監査員の選任においては、新役員の互選の結果、別表のとおり選任されました。



# ◆業務研修会◆

業務研修会は、「ロハス工学について」、日本大学工学部教授中野和典氏にお話いただきました。



## 福島県土地改良団体職員連絡協議会役員名簿

(令和6年7月29日～令和8年総会まで)

役職	氏名	所 属	方 部
会 長	石川 博利	伊達西根堰土地改良区	県北
副会長	後藤 学	高郷土地改良区	会津
〃	植松 宏行	南相馬土地改良区	相双
〃	齋藤 佳久	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
幹 事	菅野 龍太郎	安達疏水土地改良区	県北
〃	藤澤 和教	安積疏水土地改良区	県中
〃	中村 孝之	母畑地区土地改良区	県中
〃	滝田 貴博	白河市土地改良区	県南
〃	緑川 望	杜川沿岸土地改良区	県南
〃	鈴木 清剛	会津東部土地改良区	会津
〃	鈴木 勝	布藤堰土地改良区	会津
〃	渡辺 和都	会津坂下町只見川土地改良区	会津
〃	青田 和久	そうま土地改良区	相双
〃	狩野 聡史	鮫川堰土地改良区	いわき
〃	菊田 克彦	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
〃	佐瀬 隆聡	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
代表監査員	渡邊 浩彰	大玉土地改良区	中通り
監査員	鈴木 秀優	会津北部土地改良区	会津
〃	松浦 勝男	いわき市勿来地区土地改良区兼 井上用水堰土地改良区	浜通り

# 永年勤続者表彰

## 30年勤続

社川沿岸土地改良区  
福島県土地改良事業団体連合会

緑川源治  
富田秀樹

## 20年勤続

郡山市東部土地改良区  
白河市土地改良区  
矢吹原土地改良区  
会津宮川土地改良区

荒海裕一  
武藤謙治  
鈴木禎一  
酒井靖隆

## 10年勤続

安達疏水土地改良区  
伊達西根堰土地改良区  
新地町土地改良区  
鮫川堰土地改良区  
福島県土地改良事業団体連合会

三瓶甚一  
浅野大輔  
舘岡宏光  
大平理恵子  
佐藤優祐



# 退任にあたって

福島県土地改良団体職員連絡協議会

前会長 五十嵐 賢 一

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、令和7年の新春を迎えることができたことを心よりお祝い申し上げます。また、旧年中は本協議会の事業運営に際し、特段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

令和5年度より菅波元会長の後任として、本協議会の会長職を仰せつかり、任期2年間の在任中は、副会長をはじめ役員の皆様、そして会員の皆様並びに事務局の皆様の方ならぬご支援をいただき、力不足ではありましたが、課された職責を果たすことが出来たことに感謝申し上げます。

さて、この2年間に振り返りますと、コロナ禍に翻弄されながらも5類に引き下げられ、令和5年度から対面での総会を再開することができ、会員皆さんの顔を拝見しながらの総会は大変うれしく思いました。

更には、近年の異常気象や天災が続いていますが、昨年元日に能登半島地震が発生し、被災された方々へお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興を願うばかりです。

また、昨年秋の気温が過去最高を記録する等、異常気象が続く昨今、私たちの業務でも災害を日頃から予測して従事することが大切と考えています。

昨年の農業情勢は、食料安全保障の確立を基本理念とする食料・農業・農村基本法が改正され、食料やその他農産物の供給機能の重要性を踏まえ、担い手育成や農村の振興などについての考え方が明記されました。

そのような中で、世界的情勢の変化に伴う生産資材の高騰、さらには円安など、農業者にとって非常に厳しい環境が続きましたが、「令和の米騒動」により米の価格が1俵2万円を超え、一過性ではなく適正な価格転嫁を持続されることが望ましいと思っています。

このように、目まぐるしく農業情勢が変化していきますが、私たちの仕事は、組合員ファーストを第一に考え、業務に取り組んでいただければと思います。

最後になりますが、会員皆様の益々のご活躍とご健勝をご祈念申し上げ、退任のご挨拶といたします。

本当にありがとうございました。

# 永年勤続

## 永年勤続表彰受賞を受けて ～農地整備事業の成功に向けて～

白河市土地改良区  
武藤謙治

この度、20年の永年勤続表彰をいただくに至りましたのは、これも皆様のご指導、ご協力があったのものだと思っております。また、土地改良事業を進めていく上で大変励みになっております。ありがとうございます。

白河市土地改良区では農地中間管理機構関連農地整備事業泉田地区の着手・早期完了に向け動いております。最初は、平成30～31年度に当地区の地域農業の将来について話し合いを行い、その結果、地域農業を守るには農地整備事業が必要であると結論に至りました。その後、事業

推進委員会を設立し、説明会や勉強会を重ね、現在採択申請地区の決定をいただいたところであります。

本区にとって20年ぶりのほ場整備事業であり、私にとっては、初めてのほ場整備事業となります。

当該地区を手掛けて7年近く経過しており、私が土地改良事業に携わるようになって3分の1の年月を費やしております。私は、土地改良事業の花型である農地整備事業と言え、地区にとっても大事業だと考えており、事業に関係する方が事業に関心を持ち、更に事業に対しどれだけ熱くなれるかが重要だと感じております。

完了までまだ数年かかりますが、その間様々な課題に直面するかと思えます。その際には、先日研修受け入れをしていただいた会津宮川土地改良区さんに教えていただいた、「課題は先送りにしないこと」「地区事業推進委員長を始め地区役員会内で情報共有することが重要」このことを忘れずに、今後ともどのような形で農地や施設を担い手や後世に引き

継いでいくかを関係者の皆様と考えて、事業を進めたいと思います。

## 20年が経ち

郡山市東部土地改良区  
荒海裕一

この度は、永年勤続の表彰を頂きありがとうございます。

「もう20年も過ぎたんだな」と感じていたところです。

農業の知識が全くない状況で改良区のお世話になり、主に施設の維持管理業務を担当し携わる中で、東日本大震災や台風による水害、コロナ禍と様々な経験をし、また、知識を深めることもできました。少しは成長しているのかなと思います。

郡山東部地区に於いては、高齢化、担い手不足等により20年前に比べ耕作放棄地が増加しております。耕作放棄地の増加が未収金の発生に繋がる恐れもあるため、数年前から

加工用タマネギやワラビ等の作物の推進を行っているところでございます。また、営農型太陽光発電の導入も推奨しております。このような活動により、10年後、20年後の耕作放棄地の減少、農地の維持に繋がればと考えております。

施設の共用開始の年に採用して頂き20年が経ち、施設の老朽化が見え始めてきており、今後は施設の適切な維持管理、整備補修、更新が課題となって参ります。

令和6年は30年ぶりに米の値段が20,000円を超えたといえ、農業情勢はまだまだ不安定だと感じております。今後も組合員の皆様のご理解、ご協力を得ながら、組合員の皆様のことを第一に考え、同時に自分が学んできた事を後輩に伝え、育てながら職務に従事して参ります。

今は新型コロナウイルスも落ち着き、以前のように行動できるようになりました。機会がありましたら、会員の皆様と情報交換等交流が出来ればと思います。

## 勤続30年を迎えて

社川沿岸土地改良区  
緑川源治

皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年は勤続30年の表彰を頂きありがとうございます。これまで長く勤めさせていただいているのも、当土地改良区役員、総代の皆様、職員の方々、関係機関の方々、何より家族のおかげだと思えます。すべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

30年前を今振り返りますと、自身もまだ若かったなと実感します。土地改良区の存在もダムの存在も、土地改良区に採用が決まった頃に初めて知った次第です。まずは管内の水系を知る、受益地を知る、施設がどこにあるかを知ることからでした。その施設も当時は、完成して20年足らずのものでしたが、今では50年以上経過しております。施設の老朽化

により維持管理の面で、施設の補修や更新の時期は、とうに迎えておりますが、少しずつ対応しているところです。

さて、当改良区は、今年度より私と会計主任と2人体制で業務にあたっております。役員の皆様にも恵まれ、土地連の方々や、県はじめ、県南農林事務所の方々には大変お世話になっております。施設の改修につきましても、方法など色々と言、ご指導を頂きながら前に進んでいるところですが、組合員からの要望に対しても、出来ることから進めていくようにしております。事務局長になって実質、今年が初めてです。

業務においては、色々のご指導いただかなければならない事も多いです。いつまでも若いつもりでおりますが、定年まであと何年と数えられるぐらいの年齢になってきました。今まで出来なかつた施設の改修等、今後に道筋をたてなければならぬ案件も多々ございます。自分の性格上、焦ってやろうとするところがあるので、落ち着いて、皆さまのご意見、ご指導等を頂きながら、着実に前に進めて参りたいと思えます。

長はじめ新たな体制となりました。新役員の方々と協力しながら、少しでも組合員のための土地改良区になるよう頑張つて参りたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

## 永年勤続30年を振り返って

水土里ネット福島  
富田秀樹

このたびは永年勤続表彰の場を設けていただきまして誠にありがとうございました。本会職員として大変光栄に存じます。ありがとうございます。

振り返りますと、平成5年に入会して以来、今日までの間、集落排水事業の整備に10年、維持管理適正化事業、水土里情報システム整備などの施設管理業務に20年携わつて参りました。長いようで短かつた30年でしたが、周りの方々に助けられ何とかここまで来ることが出来ました。

入会した平成の初め頃は集落排水事業が最盛期で新規地区が年に20地区以上も採択になるような予算の付きで、次から次へと発注しなければならぬ状況でした。実際に役場に打合せに行くと「設計書はいつできるの？コンサルは寝ないで作成して持つて来るよ」と言われ、20〜30代は無我夢中で設計書を作つては設計審査を受け、役場に納品するといった繰り返しでした。

また、測量等で泊の出張も多く「担当者同士、酒も交わさずに良い仕事は出来ない」と言つた風潮でしたので、出張先での交流の場も多かつたです。忙しい時期ではありましたが、とても充実した日々を過ごさせて頂きました。

40代となり2011年3月11日に東日本大震災が発生、そこで津波による被災地域の調査に携われたことが大変貴重な経験となりました。ここでは水土里情報で整備した図面が活躍しました。津波災害による農地の被災は甚大なものでしたが、GPS端末の背景図として大いに活用し、被災状況の可視化を行いました。半年くらいは毎週のように被災地の調査に行つていたことを記憶しております。微力ながらも災害の復

興・復旧に携わることが出来たことを誇りに感じております。

施設管理課に配属となつてからは、施設の長寿命命化に係る業務に従事させていただいております。

県内には整備補修が必要な耐用年数を過ぎた農業水利施設が相当程度存在しており、維持管理適正化事業等の整備補修事業の重要性を身近に感じております。今後も会員の皆様方のご期待に添えるような施設整備に尽力して参りたいと思っております。

仕事以外に目を向けると、自分はじっとしてられない性格なので、頭の中は「知らない街を歩いてみたい、どこか遠くへ行きたい」状態です。最近はユーチューブなどでも色々な場所へ旅する動画も配信されており、海外旅行気分を気軽に楽しめる時代となりました。

しかしながら、映像では「目」と「耳」二感の満足感しか味わえません。出来ることなら格安宿をバックパックを背負いノープランで自由行動する旅、途上国などの手つかずの自然が残る田舎を訪れ、現地の素朴な民族やその国の魅力を体感したい、また五感をフル活用し、わくわくしてみたいと考えております。しかし現実的には、コロナは落ち着い

たとは言え、燃料費高騰、物価高、円安の折、今暫くは、国内の安近短の小旅行を繰り返して行い、五感の小出し活用を楽しむのが良いのかもしれない。

最後になりますが、これからも初心を忘れずに福島県の農業、本会の発展に微力ながら尽くしてまいりますと思っておりますので、皆様方の尚一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。御礼のご挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。



このたびは、10年勤続表彰をいただきありがとうございます。

平成24年12月に臨時職員として雇用され、平成25年10月に正職員となつてからあつという間に10年が経

ちました。

私が安達疏水土地改良区に就職したのは、前職を早期退職し就活していたところ、当時の事務局長から声をかけていただいたのがきっかけでした。

前職では携帯電話やパソコンのバッテリー製造、半導体製造設備の保全業務などをしていて、たまたま実家の田植えや稲刈りを手伝うくらいだったので、土地改良区という組織があることも、一体何をしているところなのかも全くわからない状態で面接を受け就職となつたわけですが、この10年で土地改良区についていろいろなことを学ばせていただくことができました。

平成24年度に会計経理の担当となり、初めの1、2年は単式簿記を覚えるのにすごく苦労しました。これまで簿記などやったこともなかったので戸惑うこともあれば悩むことも重ねていくうちにようやく慣れてきたところに、今度は複式簿記に移行しなければならぬということと令和4年度から複式簿記に移行となつたのですが、やはり慣れるまでにはまだまだ時間がかかりそうです。

平成28年度に事務局長が定年退職

し職員2名体制となつてから、役員選挙、総代選挙、132条土地改良区検査など色々な行事を経験し大変なことも多いですが、こうやって10年続けてこられたのは、役員の皆様をはじめ、組合員の皆様、水士里ネット福島の皆様や各土地改良区の皆様のお力添えがあつたからであり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも感謝の気持ちを忘れずに土地改良区職員として、少しでもお役に立てるように日々精進していきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いたします。



新年あけましておめでとうございます。昨年は、永年勤続表彰を頂き

まして誠にありがとうございます。平成25年より土地改良区職員に採用頂き、早いもので10年が過ぎました。こうして10年勤続表彰を受けることができたのも役員の方々と関係機関皆様のおかげであり、深く感謝申し上げます。

これまで主に会計や経理、庶務などの業務に取り組んできましたが、複式会計開始の際には、組合員様への対応や日々の業務を行いながら、土地連の皆様のご協力のもと無事に複式会計をスタートできました。開始の貸借対照表や各帳簿との照合、科目設定など、移行作業では多くの苦労もあり迷惑もおかけしました。今でも分からない所は出てきますが、土地連担当者様のご指導はもちろん、近隣の改良区の皆様ともお互いに情報を共有していただき、業務上非常に助かっております。

昨年は県北方部土地改良区の研修会にも参加させて頂き、研修に合わせて意見交換会も行いました。当改良区内で疑問に思っていることや他の改良区の皆さんはどうしているかなど、お互いに意見を交わして発言する場は初めてでとても新鮮でした。先程の会計にかかわらずに、皆様とのやり取りや周りとの結びつき

は大事なことであって、地域の市町村などの関係機関や土地改良区組合員の皆様は当然ですが、それに合わせて土地改良区と地域住民との関わりも大切なと感じました。

組合員様も世代交代されていく中、より一層土地改良区への認識を高めて頂くことは重要ですが、非農家の周辺住民の方々と、水路などの役割を知る人は年々減少していると感じます。当改良区でも多面組織との取り組みとして、桑折町や国見町の各広域組織、東大枝の単独組織があり、草刈りや支線水路の軽微補修などの活動の充実、各組織との連携を経て地域住民との関わりも進んでいます。

また、水土里を育む普及促進事業の一環として小学校の見学申請を毎年約20校受けており、西根堰の歴史や施設の役割を学習してもらっています。私も少しずつ施設見学を担当しており、説明した時の生徒たちの驚いた顔や懸命にノートをまとめている姿を見ていると、知ってもらえて嬉しい気持ちになりました。今後事業を活用して見学学習やイベントを実施し、地域の活性化や次世代に向けてさらに繋げていければいいなと思います。

土地改良区運営のこととは話が少し逸れてしまいましたが、地域住民との関わりは今後の女性理事登用にも必要なことだと思えます。一方で、耕作者減少や賦課金の未納、施設の老朽化や災害対策など抱える課題は皆様同じですが、今後の情報交換などでの交流を経て皆様の業務にプラスとなることを望んでおります。その機会には、ぜひ色々ご指導・ご助言のほどよろしくお願いいたします。

10年の勤務を  
振り返って

鮫川堰土地改良区

大平 理恵子

永年勤続の表彰を受け改めて、歳の長さを実感いたしました。

これまで勤めてきた職種とは異なり事務職が初めてだったので、何も分からない状態から色々な勉強をし悩みも苦労もありましたが、組合員

のためになると感じる瞬間もあり、10年間があつと言う間に過ごしたように思いました。

改良区に入る2年前には東日本大震災を経験し、その災害により10数年過ぎた今でも水路の被害が影響し、通水に支障をきたしている状態があります。

維持管理においては、組合員の減少、組織運営の方法等、課題は山積みではありますが今まで勤めた先輩達が退職となり、築き上げてこられた改良区の礎を更に強固とするため、仲間と共に魅力ある改良区へと成長させていきたいと思っております。

私的な事ですが、5年前よりランニングを始めました。私が走り続ける理由としては、走った後の爽快感と、走った後に食べるご飯の美味しさを知ってしまった事です。痩せるために走るのではなく、食べるために走る、その一言に尽きると思っています。

ランニングを通して、楽しむ時間が増えた事は、とても前向きで精神面でも豊富な栄養を注いでくれていると感じています。これからの時間の許す限り続けていこうと思っております。

辛いことがあっても、事務所に行

けば仲間がいつも変わりなく接してくれ「よし、がんばろう」と気持ちで切り替えて仕事を続けてくることできました。

「笑顔にしてくれてありがとうございます」改めて、仲間に感謝したいです。

これからも、改良区そして組合員のために微力ながら貢献できるように頑張りたいと思います。

## あれから10年

水士里ネット福島  
佐藤優祐

入会してから10年経ったというべきなのか、10年経ってしまったというべきなのか、「十年一昔」という言葉がありますが、三省堂新明解四字熟語辞典によると、「世の中の移り変わりが激しいことのたとえ。10年という年月を区切りとして、それ以前は昔のように思われるということ。」と記載があります。入会して

から10年。良い区切りとして少し振り返ってみたいと思います。

私は2013年3月に臨時職員として入会し、翌4月から正職員となりました。採用時のことについてあれこれ語るのは憚られますが、どうやら私は復活繰り上げ当選だったらしい。ほかに当てがなかった私は連絡をいただいたときにうれしかったことを覚えています。

何年振りかの事務職としての採用でありましたが、入会直後は企画指導課（現在の施設管理課）に配属されました。当時の部長から「総合職」として失敗を恐れずグローバルな視点でチャレンジして欲しい」と激励され、入会3日後には、大玉村の田んぼの真ん中で現地調査を行っていました。これは、東北地方太平洋沖地震の津波による原発事故に伴い広範囲に拡散した放射性物質による影響を低減させるための除染作業を行うための線量マップを作成するもので、その後も3年間福島県内各所で同様の業務を行いました。現地調査で1週間のほとんどを現場で過ごし、当時お世話になった役場の担当課に入り浸ることが懐かしく思い返されます。

そういう意味では、GIS（地理

情報システム）を駆使し、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示（マップ化）する業務を行っていました。が、「位置情報」を使って仕事をするというまさにこれが当時の部長が言っていた「グローバルな視点」か！と思いました（たぶんきっとそうじゃない）。

その後、2016（平成28）年4月から総務課経理班（現在の総務企画課）に異動となり、今年度9年目を迎えました。異動して1カ月後には、132条検査がありました。まだ通常業務にも慣れていない中、ぞろぞろやって来た検査官に対して何をすればよいかわからず右往左往することしかできなかったことが思い出されます。

大学時代に簿記を履修していたので、多少は知識もあるかと思いましたが、やはり学問的な簿記と実務では乖離があり、実務を通してしか得られない会計のダイナミックさは知的好奇心を煽るものがありました。また、実務では会計の知識だけでなく、税務などの知識も要求され、さらには法改正の情報も追いかけていく必要があります、社会人になっ

てからも日々勉強の重要性を身をもって体験する日々です。

現在の部署に異動後に携わった業務を振り返ってみると、経理・会計・財務、税務、法務、社会保険、総務、IT運用管理・保守、ITヘルプデスク、情報システム、購買・調達などなどは何屋なのかわからないほど様々な業務に関わることができ、自身のスキルアップとともにとても恵まれていると感じています。

昨今では、DXという言葉が氾濫していますが、単にデジタル化すれば解決する問題ではなく、その大元となる業務理解や関連知識も必要になります。いわゆるバックオフィス業務には、専門性や知識をもつことが求められると思います。私自身、バックオフィスの専門家としてはまだまだ未熟であり、皆さんにご迷惑ばかりかけることの方が多いですが、ただの事務職として安住することなく、バックオフィス業務という専門性を追求するためにこれからも日々精進していきたいと思えます。



# 年男・年女



## 年男の年を迎えて

会津中央土地改良区

### 二 瓶 剛 史

2025年が巳年ということ、4回目の年男を迎えます。

最近考えることは、業務の引継ぎの時期になってきたことです。

近年は、年金の受給を遅らせると受給額が増加するとか定年制の延長がいわれますが、私は、最大でも60歳を区切りに退職することしか考えていないので、次の年男になる時が退職の年になりそうです。

そう考えられるのは、農家をやっているから、体の動けるうちに様々な作物を作りたいとの考えもあり、その時の気象条件や時代の変化等見ながらやらないと、中々上手くできないような気がします。

以前は、水稻・大豆・蕎麦を作付

けしましたが、現在は、水稻・蕎麦・花き（ユーカーリ）を作付けしているので、今後、作付出来ればいいのが、菜種であり、又、大豆ももう一度作付けしてみたいと思っています。

又、趣味においても、鉄道で出かけることが好きです。

最近、只見線に乗ったことです。豪雨災害から、上下分離方式（線路・駅舎等設備を行政が所有し、鉄道会社が列車を運行する方式）で全線運転再開しましたが、乗ってみると分からない風景ばかりでした。

特に、会津柳津駅から小出方面へ行くと、同じ会津地域ですが、全く違う景色になり、未だに時間帯がよい列車だと立ち客がいるような状態です。

時間があつたとき、また乗りたいと思います。

乗り鉄もしていますが、撮り鉄もしています。主に、車両基地です。

車が車検等で点検・整備されるように、鉄道車両も車両基地で、点検・整備されています。

福島県内では、東日本旅客鉄道(株)が郡山市にある郡山総合車両センターで、会津鉄道が会津田島駅構内にあります。

年に1度一般公開されるので、日程を合わせて行くようにしています。(悪質な撮り鉄の話もありますが、ごく一部の方で、大多数の方は、ルール等守って撮影しています。)

そのような趣味の世界もあるので、土地改良区については、定年延長の規程等ができたとしても、60歳で退職したいと思っています、次の世代にバトンを渡したいと思っています。

まずは、2025年1年間無事過ごせるように健康に留意したいと思います。

## 年女の抱負

阿武隈川上流土地改良区

### 中 山 智 子

は揃って幼稚園に通っていた我が家の可愛かった子ども達も、今やそれぞれの高校に通い、好き勝手時々憎まれ口を叩くまでのびのびと成長し、時の流れの速さと無情さに只々驚いております。

その間、改良区では前局長の退職で平成30年度から会計主任が事務局長も兼務でやれと拝命し、ダム管理2年目の新人だった相山主任と2人体制で改良区運営業務全般を任せられることになりました。

最初の会議が土地改良法改正の説明会。そしてダム管理主任技術者研修期間中のダム観測、会議、事業、132条検査、選挙、イベント、賦課金、広報誌、会議、総代会、と目の前の仕事をなんとかこなして行くのに精一杯な状況で今になると考えが足りなかったなと思うこともあるのですが、工事関係を相山主任に任せてから気持ちの余裕が出来てきたので、次の年女には還暦ですから今は改善と整理、引継ぎ準備を万全にしていきたいと考えています。

さて、今年の抱負はと考えてたところに相山主任がダムから額縁を抱えて帰ってきました。管理事務所の片付けをして出て来たが処分して良いものか？との伺いで、見てみ



ると涅槃図。確かに何らかの経緯があつてダムに辿り着いたものと推測されるので役員に話してみようと話し、帰ってからググってみるとお釈迦さまは80歳になつて故郷に向かう途中でお布施にいただいたキノコ料理で食中毒になつて涅槃に入られたことでした。ダムにもキノコ採りの人がいらつしゃるので、キノコには気をつけろという意味で役員さんから頂戴したものでしょうか：というのは冗談で人生80年。沢山の方が西郷ダムに関わられて毎年少しずつ亡くなられます。ダムの耐用年数も80年。縁あつて機器類の更新や修繕やらのタイミングに居合わせている今、先人達の苦勞に感謝しつつしっかり仕事をして、ダムは永遠に後世に引き継いでいかなければなりません。今日はお釈迦さまが悟りを開かれたとされる成道会、12月8日

の朝。偏らず、バランスと調和を尊ぶ中道の大切さを知り、無理をせず、持続可能な道を選択して生きるようにとの気づきを戴いた気がしてきました。有難や有難や。

ということ、後世に謎を残さないように公私共々断捨離と記録に邁進することにして、抱負は旦那さんとスパニッシュギターの夕べを毎晩することです。良い1年になりますように。

**追伸** 松平定信公のお抱え絵師・谷文晁の筆による涅槃図で白河市の統寺所蔵の有難い絵でしたので、処分せずに改良区事務所に飾らせてもらおうと思います。

## 抱負

水土里 ネット福島

### 宗形 勇輝

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

私は令和5年度に入会いたしましたので、3年目を迎えることとなります。就職して1年目は内勤が多くなり、土地改良区に勤めていらつしゃる方々がどのような方々で、どのよ

うな業務に取り組まれているのかわかるような機会にはあまり恵まれませんでしたが、2年目で私は、巡回指導や研修会の事務局として土地改良区職員の皆様にお会いできる機会が増えてきたことで、少しずつはありますが、土地改良区を運営しているものとして、確かな情熱と誇りを持つている方が大勢いらつしゃることが分かつてまいりました。

さて、巳年ということで、人生2回目の年男となるのですが、正直に申せばあまり実感がございません。「むつみ」の原稿依頼をいただいた際にも、「あ、来年年男か。」と思わず声を上げてしまったほどです。とはいえ、12年に一度やってくる年男というのは人生の大きな節目の一つであると感じますので、3回目の年男を迎えるまでに今後どうしていきたいか、抱負を書いていきたいと思っています。

私は先輩職員に同行する形での巡回指導や研修会の事務局などの業務以外にも、当会のホームページの作成といった土地改良事業にかかわる方々や外部の方に向けた情報発信の業務にも携わらせていただいております。

情報発信につきましては、例えば

ホームページにおいて、閲覧者にとって必要な情報を正確に分かりやすく伝えられるように努めるのはもちろんですが、本県の土地改良事業に携わる方々が、いかに重要な仕事を、いかに熱心に行われているかを、外部の方がホームページをご覧になった時にじかに感じていただけるような発信が出来るよう、心がけてまいりたいと思います。

そして、巡回指導等の業務で、土地改良区職員の方のご相談を受けさせていただく際には、土地改良区の立場に立つて考えたいので、正しい情報を分かりやすくお伝えし、問題の解決が図っていけるよう、努力を重ねてまいりたいと思います。

最後になりますが、本年が皆様にとって良い1年となりますよう、お祈り申し上げます。

## 千支が一回り

会津若松市漆土地改良区

### 鈴木 けい子

明けましておめでとうございませす。

今回は年女という事で寄稿の依頼を頂きまして、「またですか? (笑)」の感があるのですが最後の機会だと

思い書いてみようと思いました。

令和7年に還暦を迎えるという事で、夫が4年前に子供たちから赤いちゃんちゃんこと帽子を贈られた時に「おじいちゃんだね」と笑っていたのに、自分も間もなくその時を迎えるのかと思うとまだまだ実感が湧きません。

自分が子どもの頃は「還暦」を迎える人たちは、皆さん大人で風格があつたなあと感じていましたが、いざ自分に置き換えてみると中身が伴わずに年齢だけを重ねて来ただけの様な気がしてなりません。

年齢を重ねるということで現実では体力も気力も落ちてきているのを実感していて、日々の業務等でも痛感していました。

そんな時に「もう、おばあちゃんだから」と弱音を吐いた時に、若い同僚に「言霊って言うじゃないですか、自分から年を取ったつて言う」と、本当にその通りになっちゃいますよ」と、窘められた事があり、彼の言葉に「ハッ」としました。

言葉は大切です。先日、4歳の孫からも「あつたか言葉」と「チクタク言葉」があるんだよと教えてもらいました。「あつたか言葉」は、『ありがとう』や『大好き』などの心が

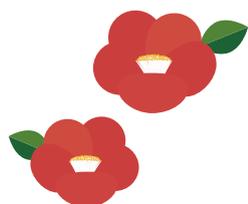
あつたかくなる優しい言葉で、「チクタク言葉」は『嫌い』や『ダメ』などの嫌な気持ちになる寂しい言葉だそうです。

日常では、つい不平不満からの愚痴や文句の言葉を発してしまいがちですが、還暦を迎える大人として「言霊」を大切に「あつたか言葉」をたくさん言えるように自分を磨いていこうと思います。

干支が一回りして時代は、昭和・平成・令和と移り替わりました。ですが私の頭の中は昭和から平成で止まっていて、まだまだ令和に追いついていない気がします。

何かあるとつい「昔は」と言ってしまう事がありがちです、これからは「老害」と言われないように気を引き締めて、心も身体も若々しく元気な60代を過ごすことを目標に頑張りたいと思います。

末筆ながら、本年が皆様にとりまして良き年でありませうご祈念申し上げます。



## 巳年の新たな成長

会津若松市湊土地改良区

渡部 恵美子

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

今年「巳」の年。「巳」といえば、皆様は宮城県石巻市にある「金華山黄金山神社」はご存じでしょうか。

金華山黄金山神社は「日本五大弁財天」の一社で、弁財天のお使いが「巳（蛇）」であることから今年の干支でもある「巳」に縁深い神社です。特に巳年の今年「御縁年」となり、例大祭が行われたりします。

ちょうど12年前の巳年（2012年）に、親戚一同数十人で1歳になるわが子連れ、金華山へ参拝に行ったことがあります。あの頃は東日本大震災があつた翌年で、神社へ向かうフェリーが出航する港は、まったく何もない見渡す限り土だけの更地でした。その中の一つだけポツンとプレハブの食堂だけがあつたその光景は、思い出すたび未だに胸が締め付けられます。

昨年は年始めに能登半島地震が発生し、豪雨、猛暑と色々な災害に見

舞われた1年でした。どこかで地震が起こるたび、私たちは東日本震災を思い出し、胸を痛めていると思います。各改良区の皆様におかれましても当時の地震の際は、様々な御苦労があつたと思います。そして今、その地震の経験を活かし、溜池の耐震整備や土地改良施設の大規模地震対策など様々な事業を進められていることと思います。

私が会津若松市湊土地改良区にお世話になり早4年。12年前金華山で抱っこされていた子供も、今年で小学課程が終わります。今は親と隣を歩くのも気恥ずかしく思う位大きく成長してしまいました。その姿に成長の早さを感じつつ、私もまだまだ成長していかなければならないと日々思い、過ごしています。

2025年は十干が「乙」、干支が「巳」の年になります。「乙」は植物がこれから成長していく状態、「巳」は豊穰。植物が最大限まで成長した状態を表し、今年はこれまでの努力や準備が実を結びはじめ、勢いを増していくことを示唆しているそうです。

私も土地改良区で4年間培ってきた経験を生かしながら、新たな成長へと繋がっていきけるような年にした

いと思います。

最後になりましたが、まだまだ成長途中でおりますので、皆様、今後ともご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願いいたします。

## 相撲好きな年男

会津大川土地改良区

### 芳賀章平

本年は巳年ということで人生3度目の年男です。36歳になりますので、自分もアラフォーだなと実感しているところです。

昨年は勤続表彰で寄稿し仕事のことは大体書いてしまいネタ切れなので、今回は趣味である大相撲について書いてみようと思います。皆さんも大相撲はテレビ中継などで1度は目にしたことがあるかと思いますが、力士には番付というものがある、最下位の序の口、序二段、三段目、幕下、十両、前頭、小結、関脇、大関、横綱（最高位）となります。力士が腰に巻いているのがまわしで序の口から幕下までは全員が同じ色のまわしで、十両以上のいわゆる関取と呼ばれる力士は様々な色鮮やかなまわしを付けています。また、テレ

ビ中継される本場所は年6回開催され、1場所15日間の熱戦が繰り広げられます。1月、3月、5月、7月、

9月、11月で1、5、9月は東京の両国国技館で3月は大阪で7月は名古屋で11月は福岡でそれぞれ開催されます。本場所とは別に全国各地を回って相撲の普及活動などをする巡業があり、本場所まで行けないが相撲や力士を間近で見たいという方には巡業がおすすです。かく言う私も大相撲はテレビ観戦が主でしたが、昨年8月に巡業が福島市で開催されるということで初めて参加しました。力士同士の稽古や本場所さ

ながらの取組を間近で見られたり、力士と握手や写真撮影ができたりと大相撲ファンにはたまらないイベントでした。1つ残念だったのは、福島市出身で私の推し力士の若元春（わかもととはる）関と握手したりできなかつたことです。しかし、テレビでしか見たことがなかつた力士達と同じ会場にいて、ふれ合えたということは貴重な経験となりました。最近では家でビールを片手に大相撲中継を見てると妻と3歳の娘も一緒に観戦するようになり、娘に「どのお相撲さんが好き？」と聞くと「若元春」と言ってくれるのを嬉し

く感じています。今後も娘に相撲の英才教育（笑）を続けて相撲好き女子になって貰い、ゆくゆくは家族で両国国技館へ大相撲観戦に行くのが目標です。

趣味にはお金が掛かりますが本場所や巡業へ行くことをモチベーションの1つにして、仕事も今まで以上に邁進し趣味でリフレッシュしてまた仕事をしてと、自分の中で良いサイクルでやっていけたらなと思っています。会員の皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 新年の抱負

水上里ネット福島

### 鈴木友理子

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今年には巳年となり、「むつみ」の原稿執筆依頼をいただきました。令和4年の入会後以来2回目の原稿執筆であり、未熟者としては大変恐縮しております。

巳年は、脱皮する蛇のイメージから「復活と再生」を象徴し、新しいことが始まる年とされているそうで

す。また「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ」年という意味もあるそうです。

これまでを振り返ると、入会当初は未経験の業務で覚えることが多く、余裕がなくなり柔軟に考えることができず、他にもいくつか考え方ややり方がある、ということが見えていなかったように思います。失敗を恐れていた部分もあり、今思えば視野が狭かつたと感じています。今でも失敗は多くご迷惑をお掛けし大変申し訳なく思っておりますが、試行錯誤と捉え、様々な考え方や方を取り入れることにより柔軟性を身に付け、より一層業務に精進したいと思います。

こうした気付きができるのも職場の上司や先輩方にいつも支えていただいているおかげであり、心から深く感謝申し上げます。ご指導いただいたご恩に報いることができるよう、日々の積み重ねを大事にして、成果として実を結ぶことができるように心機一転して業務に取り組みまいります。

末筆ではございますが、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

# 新会員のみなさんより

よろしくお願いたします。

富岡町土地改良区  
坂本 頼我

会員の皆様はじめまして。令和6年度4月より「富岡町土地改良区」にてお世話になっております坂本頼我と申します。

私は、小学3年生まで富岡町に住んでいましたが、震災の影響で移住せざるを得なくなりました。実際に富岡町には9年ほどしかいませんでしたが、大きくなるにつれて、富岡

町で働いて震災前のような美しくて

にぎやかな街に戻りたいと思うよう

になりました。高校生になり、就職

か進学か決める時期になり、このま

ま就職しても富岡町の復興を手助け

できるような知識も技術もない自分

には何もできないと思ひ、災害につ

いてのリスクマネジメントを学べる

大学に進学しました。そこで、災害

が起きる前、起きた後の対処につい

て知識を深めて参りましたが、この

知識をどこで活かせばいいのか悩ん

でいるときに父から土地改良区を勧

められ、土地改良区について調べて

みると、震災で被害にあった農地を

整備や、災害での被害を減らすため

の事業をしているのを拝見し、ここ

なら大学で身につけた知識を活かせ

ると思ひ、ご縁あつて入社する運び

となりました。

富岡町土地改良区に入り、大学で

学んだことを活かして自分の名前の

とおり、周りに頼られるような存在

になりたいと思ひていましたが、職

場内の会話を聞いていると知らない

言葉が飛び交っていたり、場所を聞

かれてもわからない状況でした。職

員同士の会話だけではなく、業者さ

ん、組合員の方との会話はそれ以上

に理解できず、初日から不安で冷や

汗をかいてしまうような状況でし

た。それに加えて入社する前に思っ

ていたような仕事だけではなく、自

分の足で歩いて現場を確認したり、

組合員からの要望があつたら急いで

対処したり体力を使うような仕事が

多く、特にかんがい期は毎日家に帰

る頃にはクタクタになっていまし

た。しかし、約8カ月経つた今は、

周りからの支えもあり少しずつでは

ありますが、体力も付き仕事にも慣

れてきて、業者さんや組合員の方と

話せるのが嬉しく感じてきました。

土地改良区職員として仕事をして

いくうちに、草刈から田んぼの水管

理など、改めて農業の大変さを実感

し、1日でも早く組合員の皆様の力

になりたいと思ひました。

最後になりましたが、土地改良区

関係機関の皆様にはご心配ご迷惑を

お掛けすることもと思ひます

が、精一杯努めて参りますのでご指

導ご鞭撻の程、宜しくお願ひいたし

ます。



## 未熟者の私ですが…

請戸川土地改良区

天野 光利

はじめまして。令和5年10月より請戸川土地改良区の業務課で勤務しております天野光利と申します。よろしくお願ひします。

私は、南相馬市原町区の出身で現在は相馬市に住んでいます。結婚し子どもが産まれたタイミングで相馬市の方に移り住みました。

浜高等技術専門学校を卒業し、製造業を20年近くして参りました。前職は製造業という事で、ほぼ未経験に近い転職でした。転職当初は、不安やわからない事も多く苦勞もしました。が、優しい先輩方や周りの関係者の方々に支えられ日々の業務をなんとかこなせるようになりました。

土地改良区の業務としては用水路などでバルブを操作して田んぼに水を届けるという事は知っていましたが、実際に入職してみると仕事の幅が大変広く驚きました。大柿ダムをはじめ請戸川土地改良区が管理している施設なども数えきれないほどあり、施設の場所を覚えるだけでも一

苦労です。聞き慣れない専門用語や地区名など、委員会などで委員さんに質問を受ける場面や、先輩方に聞かれても理解できず何度も聞き直してしまい自分の無能さが身に染みます。更には関係機関の方々、地権者や委員の皆さんとも関わる機会が多いので、信頼性や協調性、責任感も問われる仕事です。そういった経験もほとんど無く、電話に出るだけでも緊張してしまうくらいなので、まずは人に慣れる所からスタートし、何事にも真摯に取り組みたいと考えております。

そんな中、今年の5月から請戸川水力発電所が新たに稼働し始めました。今のところ大きなトラブルも無く順調に稼働しております。しかし雨量、流入量などはダムの水位に大きく影響するので、天候を稼働前より気に掛けるようになりました。今年、まとまった雨が降らず水不足に悩んでいましたので、天気予報を見て一喜一憂していたことを覚えています。天候だけは運なので、どうにもできませんが、様々なトラブル等にも対応できるようにしっかりと知識を得て行きたいです。

最後に今後の目標を述べたいと思います。震災から13年以上が経ち、

未だに原子力発電所の事故の影響が残っています。地元に戻られていない地権者さんも多く、維持管理が難しい状況であり、営農するには担い手の問題など課題が山積みであります。それでも請戸川土地改良区は南相馬の小高区の各地区は元より、浪江町、双葉町と営農の準備に向け活動しだしている地区は増えてきています。ただ人手不足が深刻であり、私も地区を担当する機会がこれから出てくると思われれます。ほ場整備関係の知識や会員の皆さんの顔と名前もすっかりと頭に叩き込み、来年はその辺も新たに挑戦していきたいと考えております。まだまだ未熟な私ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくおねがいします。

## 今年一年と今後の抱負

水土里ネット福島  
和田 歩夢

令和6年度4月より福島県土地改良事業団体連合会、農村振興部農地管理課に配属されました和田歩夢と申します。よろしくおねがいいたします。

大学時代は法学部で憲法、民法、労働法等の法律を学んでいました。自分の学びたい法律を学びながら毎年改正される法の知識をアップデートしていき法律の意義や判例を用いて判決に至ったのかを法の観点から議論していくことで法について深く学ぶことができました。

私は福島で生まれ育ち、農業とはあまり深い関わりがありませんでしたが本会で業務に従事しながら農家の方々と接することで福島の農業農村について少しずつ知ることができたと思っています。

水土里ネットや土地改良という名前を当初は存じておりませんでした。が、ハローワークにて初めて本会の存在を知りました。本会ホームページで土地改良と農業農村整備の概要について調べたところ、本会では災害等に強い農業農村整備や農業水路、農道、農業施設の設立等様々な面から取り組む組織であり福島の農業を守り、より良いものにする重要な役割を担っていることがわかりました。

本会に入会して半年以上が経ちますが、未だわからないことばかりで先輩方や上司から多くのことを学び福島の農業農村、業務に関する知識

を得ております。ほ場整備や換地、土地改良法といった初めて聞く専門用語が多くあり、日々学ぶことばかりであると感じております。特に換地委員会で話を聞いておりますと専門用語だけでなく農業関連の話もよく聞くためそちらの分野の知識にも精通していく必要があることを常々感じる場面が多々あります。その度に先輩方や上司から詳しく話を聞くことでどのような内容であるかを把握することが少しずつできていますのでこれからも続けつつ自ら調べ知識を得ていきたいと思えました。

最後になりますが、これから先も様々な壁に直面することもあると思いますが、微力ながら本会の業務に従事し福島の農業農村のために努めたいと思います。皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくおねがいいたします。

## 土地改良区職員となり

中島村土地改良区  
山田翔太郎

初めまして、令和6年4月より中島村土地改良区に勤務しています、山田翔太郎と申します。どうぞよろ

しくお願いいたします。

私の実家は飲食店を経営していることもあり、大学卒業後は外食産業に進み経営などを学び飲食に携わってきました。また、スポーツを長年していたのでお米は多く食べていました。元々お米は好きで今でも1日2〜3合は食べます。

土地改良区で働きはじめお米ができる過程に携わることができ、初めて見る光景などもあり新鮮です。春の活着期には田んぼに水が入り夕焼けが反射する景色であったり、秋の収穫時期を迎えると稲穂が黄金色になりとてもきれいだなと感じます。私の出身は中島村ではありませんが、地元の石川町でも同じような光景は目にしています。土地改良区に入りさらにきれいに感じています。

中島村土地改良区の職員となり早いもので9カ月が経ちました。改良区に勤務するまでは正直どのような仕事をするのか分かりませんでした。4月からの業務を振り返ってみると団体営の事業や、幹線水路の堀払い、草刈、水路の見回り、堰の掃除等、事務作業も含め覚えることが多く、時間が早く過ぎていく日々を過ごしています。分からない事などは関係機関先の方に聞くと、丁寧

に教えていただけるので大変ありがたいです。

また、農家さんと距離が近く水路の見回りをしている時など「いずれは1人で大変だけど頑張れ」など、会うたびそのようなお言葉をかけていただけるので、地元の農家さんのためにも早く仕事を覚え、稲穂に影響がでない水管理等をしていきたいと思えます。

用排水路に関して昭和40年代に整備した水路で老朽化が多々見られます。稲刈りが終わってからは農家の方や役員の方から水路修繕の問い合わせが多いです。現状は予算の兼ね合いもあり全部直すことは不可能ですが、計画を立てて修繕していき滞りなく用水が行きわたるように整備し、今まで水があまりこなかったところの田んぼに水が来るようになれば耕作放棄地にならず、田んぼを借りた人が多くなればいいなと思っています。

最後にまだまだ未熟ですが土地改良区の仕事を通じて地域が少しでも活性化し若い農家の方が増えることと、組合員の方に頼りにされる職員を目指していきます。今後とも関係者の皆様からのご指導ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

## ご挨拶と今後の抱負

水土里ネット福島

### 大河原誠大

令和6年度4月より、福島県土地改良事業団体連合会、農村振興部環境整備課に配属になりました大河原誠大と申します。よろしくお願いたします。

12月で環境整備課に配属され8ヶ月が経ち、初めは大学で学んでいた経済学から未経験の農業土木という分野に問われる能力が大きく変わったこともあり、戸惑いもありました。が、上司や先輩方の応援あつて少しずつ知識が身につく、親戚の土木分野に明るい方からも「社会人になって目が変わってきた。」と言われるようになりました。

「自分は本当に成長できているのだろうか。」と不安になった時期もありましたが、今こうして振り返ってみると勉強と挑戦の繰り返しの日々であり、また、見慣れた道を通る際もつい水路やゲートなどを気にするようになったことから、農業土木が今や私を構成するものの一部になったことを実感でき、非常に内

容の濃い8ヶ月間であったと反省しています。

今後の抱負としましては、まず何と言っても仕事の流れを覚えることだと思えます。春から関わっていた仕事が仕上げの時期を迎え、一通りの業務の流れを経験したことにはなりますが、今までは与えていただいた仕事をとにかくこなす、といった考えをしていたと感じるところがありました。来年度は今年度の振り返りのつもりで過ごし、業務と業務のつながりを意識して仕事に励みたいと思っています。

また、測量や現地調査など体力勝負の業務を行う度に体力不足を痛感している中で、ウォーキング等を生活習慣に取り入れ、コロナ禍や運動習慣の無かった大学生活で怠けきった身体を鍛え直し、仕事を円滑に行う上での体力作りをしたいと考えています。

最後になりますが、私にとつて農業土木分野はまだ奥の深いものであり、勉強と挑戦の日々はまだまだ続く、いや成長の為に続けていかねければならない、と感じております。これからも自身の名の通り、物事に対して誠実に向かい合う態度を忘れずに一層励んで参りますので、

皆様にはご指導ご鞭撻の程よろしく  
お願い申し上げます。

よろしくお願い致  
します。

母畑地区土地改良区

志賀 智秀

令和5年10月より母畑地区土地改  
良区に勤務しております志賀智秀と  
申します。どうぞよろしくお願い申  
し上げます。

私は福島県の県南地方にある中島  
村の出身です。私の地元は田んぼに  
囲まれた田園風景が広がる場所で、  
幼少期の頃からその風景を見て育っ  
てきました。

私の実家も兼業農家として稲作を  
しており種蒔きと田植えでは主に苗  
運び、稲刈り時期には、籾運びと袋  
詰めした米を運んで積み上げる手伝  
いなどをしており、ある程度は出荷  
までの流れは把握しています。

また、前職は農協に勤務しており  
まして、金融、共済業務を通して地  
元農家さんと接する中で、様々な交  
流をしてきました。外務の広報配り  
で農家さんのご自宅で話をしている  
と娘、息子さんは実家から出ていな

いか、実家に住んでいても会社勤め  
でとても農家をやるような状況では  
無いという話をあちこちで聞いたこ  
とを今でも覚えています。その後、  
一度会社員として勤務しましたが、  
ご縁があり当改良区で勤務すること  
となりました。

農協勤務時代に働いていた地域と  
は別の地域の現状も見ることにな  
り、農地といっても平坦な場所もあ  
れば丘陵地のような場所で稲作をし  
ている現状を目の当たりにして改め  
て農家の方の大変さを実感しました。

当改良区は千五沢ダムの水を取水  
し、パイプラインでポンプ場などの  
各施設を通じて、田んぼや畑に供給  
し、給水栓を捻ると水が出るという  
仕組みだと知り、今までU字溝の中  
を通って田んぼまで水が行っていた  
風景を主に見てきた自分にとっては  
埋設管の中の水が通っていてそれ  
が、郡山から白河の東地区まで繋  
がっていると知った時に凄じ事業を  
行ったのだなという率直な感想を持  
ちました。

改良事業から25年以上が経ち当時  
の組合員さんも世代交代が始まって  
きており、耕作放棄地も増えて来て  
いる状況かと思えます。

個人的な見解としてこれからの農

業を考えた場合に、耕作放棄地を利  
用した太陽光設備の下で耕作をする  
といったことも始まっており、そう  
いった革新的なやり方や、スマート  
なやり方での農業を目指して行くこ  
とも今後は必要ではないかと感じて  
います。農業従事者への負担をでき  
るだけ減らすこと、効率的な収益性  
の確保を目指して若者が農業をする  
きっかけになればと、青二才ながら  
感じております。

勤務したばかりでまだまだわから  
ないことが多いですが、これから知  
識と経験を身に着けながら頑張っ  
ていきたいと考えておりますので皆様  
方の知見、ご指導ご鞭撻の程よろし  
くお願い申し上げます。

よろしくお願い  
します

福島市土地改良区

神藤 卓也

今年（令和6年）4月より福島市  
土地改良区に籍を置くことになりま  
した事務局長の神藤卓也と申しま  
す。前職は福島市職員です。

技術系職員として、都市計画や下  
水道、道路、河川、水道などの業務

に携わるとともに、市民の窓口であ  
る支所にも在籍し市民の生活に関わ  
る業務にも関わってきました。

農業関係の業務としては、若い頃  
に5年ほど農業基盤整備の業務に携  
わった時期があり、当時の土地連さ  
ん、そして籍を置くことになりました  
た福島市土地改良区からアドバイス  
等をいただき業務を進めることがで  
きたことを覚えております。

この度、土地改良区の業務に携わ  
ることになりましたが、農業関係の  
業務に携わった市職員時に、もっと  
問題意識を持ち広い視野で業務に携  
わっていたら、現在取り組む業務に  
役立っていたはずと今更ながら後悔  
しております。これから学ばなけれ  
ばならないことが多いと考えます  
が、得たものを身につけるとともに  
に、過去の経験やスキルを活かし業  
務にあたっていきたいと考えており  
ます。

土地改良区の運営にあたっては、  
役員、総代をはじめ組合員の皆様と  
情報を共有し、同じ方向を見て歩み  
を進められるよう、事務所職員とと  
もに取り組んでまいります。

現在、人口減、少子高齢化、物価  
高騰など様々な変化が多方面に影響  
を及ぼしております。農業を取り巻

く環境も同様であります。後継者不足とともに高齢化によって土地改良区の組合員の代替わりも進んでいきます。土地改良区として今後も組織力を保っていくためには、土地改良区の役割と組合員皆さんの責務について改めて理解してもらうことが必要であり、更に運営する土地改良区自体の健全性を保っていくことが必要と考えます。その具体策が何かは即答できませんが、関係機関・関係者の皆さんのアドバイスをいただきながら対応して参ります。

福島県土地改良団体職員連絡協議会におかれましては、引き続き土地改良区の発展のため関係者の情報共有と親睦の場となることを期待しております。最後に、土地改良区発展のため取り組んでまいりますので、関係する皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

よろしくお願  
いたします

駒形土地改良区

兼子 麻子

会員の皆様初めまして。令和6年4月より駒形土地改良区に勤務して

います兼子と申します。今まで事務職に従事してきましたが、駒形土地改良区に入職して9ヶ月、さまざまな経験を経て現在に至ります。私の家が農家だというのに農業の知識は全くなく、最初は相手が何を質問しているのか、何を言っているのか、分からない状態でした。初めて聞く単語や専門用語に驚きつつも新しい分野を学ぶことの楽しさを噛み締めています。

理事さん達や水土里ネットの方々には、丁寧サポートしていただき、土地改良区の組織のことや地元の関係者とのつながりなどを教えていただいています。

日々の業務に集中していますと覚えることも多く、時間が過ぎるのが早く感じます。その中で総代会の挨拶、会計報告や説明など今まで経験したことがなかったので貴重な体験をさせていただきました。今、振り返ると本当に緊張していて無事に終わった時には心から安堵しました。総代会後に参加する研修会等は見方が変わり人前で話をする人をなんて上手なんだろうと憧憬の思いで聞いています。

地名や堰の事、戸惑うことはまだまだありますが、その都度資料がど

こにあるのか探したり、時には県や市の方々に聞いてどうしていたのか確認しています。こんな事を聞いてもいいものなのかと思う事も親切に教えていただき、周りの人達には感謝しています。

先の事を考えると不安な気持ちにもなりますが、分からないことはひとつひとつ覚えれば良いと理事長に励まされながら仕事に取り組んでいます。

配水計画や小作料協議会などこれからの事もありますが、臆することなく「ならぬことならぬ」の精神で一歩一歩前進しながら仕事に向き合い、組合員の皆様方や周囲の方々の質問等に返答できるように正しい知識を身につけたいと考えています。知識不足ではありますが水土里ネットの皆様、会員の皆様ご迷惑をお掛けする事もあるかと思いますが今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



日々レベルアップ

阿賀川土地改良区

小林 咲希

会員の皆様はじめまして。令和5年8月より阿賀川土地改良区にお世話になっております、小林咲希と申します。よろしくお願いたしました。

私の家は兼業農家で、小さい頃祖母と一緒に田んぼや畑に行っていました。田植えの時期は泥だらけになりながら作業し、稲刈りの時は家の精米所でお米が出来るのを楽しみにしていました。収穫後家族と新米を食べることが何よりも嬉しく、その時から農業と関わりたいと思ひ農業高校、農業短大と進んだ後、ご縁があり入職させていただきました。

私は今、賦課金関係を担当させて頂いております。会計のことは全く分からず、一からのスタートですが先輩に教えて頂きながら取り組んでいます。「賦課金」という言葉は知っていましたが、当改良区に入職して水の維持管理に必要なお金だと知りました。組合員の方が現金で賦課金をお支払いに来ていただいたとき「頑張っってね」と声をかけてくださ

## 土地改良区の職員 となつて

福島市土地改良区  
佐藤 汐萌実

り、ますます組合員の方のために頑張ろうと思ったのと同時に目標も出来ました。それは簿記を取ることで。少しでも先輩の力になりたいのと、会計業務をやる上で当改良区全体のお金の流れを把握しないと一歩前に進めないと思つたからです。何も分からないところからで不安ですが、少しでも手が空いたら勉強し有効に時間を使っていきたいと思えます。また、私は事業や現場関係の問い合わせがあつた時はつきり答えられないので、管内集落の水路や付帯設備がどこにあるのかを先輩に教えて頂きながらもつと現場のことも勉強したいと思えます。

当改良区に入職して組合員の方や役員さん、総代さんと各土地改良区の方と話す機会が増え、人と話すことが好きになりました。もつとこれから色々なことを吸収し、いつか誰かの頼りになるために日々レベルアップし続けます。今日よりも明日、明日よりも明後日をモットーに頑張りますので組合員の皆様、会員の皆様、関係土地改良区の皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

会員の皆様、はじめまして。ご縁がありまして、令和5年7月より福島市土地改良区にてお世話になつております。佐藤汐萌実と申します。よろしく申し上げます。

令和5年7月から臨時職員として、令和5年12月から嘱託職員として勤務しており、あつという間に、入職してから早1年半が経とうとしております。現在、産休中で、お休みをいただいております。その後、育児休暇をいただき、約1年後、職場復帰の予定となつております。

私は、生まれも育ちも福島市で、県外の大学に進学をし、地元『福島』が大好きなので、福島市から通学しておりました。卒業後も、地元へ貢献したいと思う思いから、福島市内の企業で、総務関係や保険関係の窓口業務等を担当しておりました。その後、土地改良区の勤務のお話をいただき、正直、人数が少ない職場であり、土地改良区とは何か？全く分からず、この職場でやってみようか不安でした。入職した7月は、賦課金の納付書発行時期の準備が始まる忙しい時期で、あつという間に1ヶ月が過ぎ去ってしまいました。8月に納付書を発行し、よく理解できない状況で組合員の方からの問い合わせの対応し、日々焦りながら業務をこなす毎日でしたが、徐々に組合員の方からの対応にも慣れていき、今年度は割とスムーズに組合員の方からの問い合わせ対応を行うことができました。前職で、窓口対応をしておりましたので、組合員に寄り添った対応が生かされたのではないかと思います。今後も組合員の方々に寄り添った対応をしていき、土地改良事業にご理解していただけるよう丁寧な対応を心掛けたいと思っております。

最後になりますが、まだまだ知識不足でわからないことが多く、ご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思えます。今後、様々な業務を責任を持ちながらこなせるよう、日々精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

## 土地改良区の職員 となつて

福島市土地改良区  
笹木 美沙

初めまして、令和5年7月より臨時職員、同年12月より嘱託職員として福島市土地改良区に勤務しております。笹木美沙と申します。生まれも育ちも福島で、大学在学中は県外に住んでおりましたが、卒業と同時に福島に戻り現在に至ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

福島市土地改良区の職員となり早くも1年半が経とうとしておりますが、改めて職務内容を振り返ると時間の流れの速さを感じます。

入職当時は地元に住んでいながらも土地改良区管内の地区名と位置が一致せず地区を覚えるだけでも精一杯、田畑に繋がる水路など日々通っている道路脇の水路ですら分からず、現場へ出向くと今まで知らなかった水門や水路、水の流れを知り驚きの毎日でした。

幼いころは父が兼業農家だったこともあり、田植え、稲刈り、野菜づくりなど農業は非常に身近なものでした。週末になると畑へ行き種ま

き、カエルにビクビクしながらの野菜の収穫、5月のゴールデンウィークには必ず家族そろって田植えをし、秋には稲刈りをする。毎年決まったサイクルで農業とは関わりを持っていました。ですがその農業を支える水路・水については何も知らず、組合員の方から水路についてのお話をされた際も水路の場所すら分からず、話の内容について行けず困惑する日々を過ごしていた事が思い出されます。

徐々にはありますが、最近では話の内容について理解出来ることが増え、うれしく思うと同時に多忙をきわめ膨大な業務をこなしている諸先輩方の凄さも改めて感じながら、自分はまだまだ成長途中にいてこれからどんどん知識・経験を増やしていかなければいけないと身の引き締まる思いです。

農業従事者の高齢化、離農者の増加、賦課金滞納など土地改良区をとりにまく環境はとて厳しい状況にはありますが、一つ一つ問題をうやむやにせず組合員の皆さまのお力になれるよう日々努力し今後も精進してまいりたいと思います。みなさまのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

## よろしくお願いたします

会津北部土地改良区  
花見龍之介

令和6年4月1日から会津北部土地改良区に勤務している花見龍之介と申します。皆様、よろしくお願いたします。

私の抱負は「スタートラインに立つ」です。

私は事業管理課に所属しています。管理地区内での現場作業を入庁してすぐに先輩方に教えていただきました。時には一人で外に出て、水系を確認することもありました。しかしすぐに、この仕事において自分が知らないことだらけだということに気がきました。この道具はどう使うのか、そもそも名前は何なのか。実家付近の田んぼに何度も行っただとがあるはずなのに、その横を流れる水路がどこから来てどこへ向かうのかすら知りませんでした。さらには十数個ある頭首工やダムの名前やかんがい時期の対応など、私にとっては未知の経験しかありませんでした。正直、先輩方の動きについていこうとするだけで精一杯です。来年

以降、自分は同じようにできるのか不安でしかありません。

現場だけでなく、事務作業においてもわからないことだらけでした。また、社会人として初めての勤務ということもあり、学生と社会人との違いを痛感させられる日々です。

全てのことが一からの再学習です。社会人の立ち振る舞いとしてもまだまだ未熟で、これを書いている時期も先輩方からたくさん注意を受け、反省を繰り返しています。それと同時に、焦る私に対してアドバイスや温かい言葉をかけていただきました。その言葉を一つずつ胸に刻み成長していきたいです。それでも未だに失敗を繰り返します。

今は先輩方に頼りきりですが、少しずつ仕事や社会のことを身につけ、職場内や組合員の皆様に必要とされるようになりたいと思います。そのために、まずは会津北部土地改良区職員としてのスタートラインに立ち、先輩方のペースについていけるよう精進してまいります。

皆様、これからどうぞよろしくお願いたします。

## よろしくお願いたします

会津北部土地改良区  
生江 久子

本年4月より会津北部土地改良区にお世話になっております生江久子と申します。実は平成15年から2年間会津北部土地改良区の臨時職員で勤務経験がありまして、恥ずかしながら約19年ぶりに嘱託職員として戻ってまいりました。

前職とは違い新たな業務となる総務課に配属され8ヶ月が経過し、少しずつですが日々の会計業務・月計表の確認や賦課金の発行から収納までの業務を覚えてきました。勤務経験があるとはいえ以前は会計や賦課業務には携わってませんでしたので、まだまだ戸惑う事ばかりですが、職場の雰囲気も良くその都度丁寧に教えてくださり感謝しております。

先日、統合整備推進研修（会計研修）に参加させて頂きました。事例をもとにポイントや複式簿記についてや財務諸表を活用した財務分析の方法について学んできました。まだ知識が浅いのでとても有意義な研修で、今後の業務に活かしていきたいです。

立ちできるような頑張っていきたいと思えます。

土地改良区は事務仕事だけでなく組合員の皆様あつての改良区ですので皆様とのコミュニケーションを大切にしていかなければと思っております。

最後になりますが、まだまだ分からない事が沢山ありご迷惑をおかけしますが、引き続きご指導よろしくお願ひします。

よろしくお願ひいたします

水土里ネット福島

佐藤 汐織

皆様はじめまして。令和6年4月より福島県土地改良事業団体連合会にてお世話になっております佐藤汐織と申します。よろしくお願ひいたします。

私は生まれも育ちも福島市で、祖母が市内の専業農家だったこともあり、子どものころから地元の野菜や果物を食べて育ちました。東日本大震災で農業の継続を諦める方々を目の当たりにし、新鮮な野菜や果物を食べられる環境がいかに恵まれて

いたかを痛感したことをきっかけに農業に携わる仕事をしてみたいと思ふようになり、前職では土地改良事業の法手続審査を行う業務に携わることができました。希望が叶いともうれしかった一方で、農業に関する知識がまったくない状態でのスタートだったため、法令や要綱・要領などの専門用語にとても苦戦しました。それでも、震災や災害からの復旧・復興をする過程を知ることができ、とても貴重な経験だったと思っております。

現在は農村振興部農村整備課に所属し、県営土地改良事業の計画変更に係る業務を担当しています。最初は初めて耳にする言葉や書面上では見たことがあつても詳しくは理解できていなかつた言葉がたくさんあり、メモをとることに必死で打合せの内容を理解したり、資料を作成したりするのに都度時間がかかつてしまいました。また、日々の業務ではパソコンに向かって資料作成をするだけではなく、他の課との連携が必要な部分も多くあります。目の前のことに精一杯になつて情報提供が遅れないようにしたり、出張が続いている中で時間を作つて打合せをしたりと、一度に多くのことを考える必

要がありますが、その部分もまだまだ未熟であると痛感しています。反省の日々ですが、質問がしやすい職場の雰囲気や先輩方のおかげで理解を深めていくことができていますので、大変ありがたいです。

まだまだ至らない点が多く、実際にやらなければいけないこととやることの差にもどかしさを感じる日々ですが、任せていただいた仕事に責任を持ち、日々精進してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

よろしくお願ひいたします

水土里ネット福島

福田 知季

令和6年4月より福島県土地改良事業団体連合会にお世話になつております、福田知季と申します。よろしくお願ひいたします。

大学時代は福祉を中心とした大学に通つていたにもかかわらず、福祉関係の資格はほぼ取らずに学芸員資格という誰もが「なぜ？」と突っ込みたくなるような資格の取得に励んでおりました。そんな私は、農村振

興部農村整備課に配属され、現在は圃場整備事業における調査・設計などが主な業務となっております。

初めは業務内で使用される用語などが分からず苦戦していましたが、上司や先輩方などのサポートもあり多くのことを学びながら業務に取り組むことができております。現地調査や他機関との打合せなど内業以外にも県内の様々な地区に出張に行くことも多く、刺激の多い日々を送っております。中でも現地調査は、実際に地区へ赴いてあぜ道を歩き用排水の流水方向の確認や、田んぼに穴を掘り土壌タイプの調査など非常に体力勝負な業務でもあり、作業後はへとへとになり体力のなさを痛感することがよくあります。内業と外業のそれぞれをこなすために必要な体力づくりが農村整備課に求められるものだと感じました。

また、新卒で入つた私が最も実感していることは、圃場整備事業において多くの関連機関が関わっているということとです。県の農林事務所や土地改良区との連携、地元の役員や地権者など多くの方の意見を聞き、どのようにして計画に取り入れていくか検討する。業務を行うなかで、これだけの人とかかわりができて

いくことを短い期間ながらも感じ取ることができました。

今後の展望につきましては、圃場整備に関する知識をしっかりと定着させることと業務に係る資格の取得に励もうと考えております。知識の定着に関しては、業務の中で出た疑問や不明点などを自分で調べたり、上司に質問したりすること。資格の取得に関しては、測量士補や技術士補などの資格取得を目標に取り組み、いち早く皆様の力になれるよう貢献していきたい所存であります。

今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

## はじめまして

鮫川堰土地改良区

高橋 俊輔

令和6年6月より鮫川堰土地改良区でお世話になっております。高橋俊輔と申します。よろしくお願い致します。

私は福島県いわき市出身で、故郷の生まれ育った町の中を流れる鮫川は私にとって憩いの場のような存在

でした。幼少期には友人と川遊びをし、中学では絵画の題材に鮫川を選定し、コンクールで受賞した経験もございます。そんな鮫川ですが大人になるにつれ、関わる機会は少なくなり、傍を車で通っても鮫川の存在すら忘れかけていたそんな中、見つけたのが鮫川堰土地改良区の求人でした。幼少期を思い出し、かつての憩いの場に何か恩返しができないかと思い応募しました。そこからご縁があり、今現在に至ります。

私は関東の大学へ進学し、地理を学んでおりました。そのため、山がちな地形であるいわき市から関東平野に立った時、一面平野で地平線の彼方まで見渡せる様な風景に大変感動したことを今でも思い出します。地理学は多岐にわたる分野があり、多角的な視点をもって地球環境を網羅し、自然、文化などがそこで生活する人々にどのような意味を持っているかを学ぶ学問です。机上だけでは分からないことについては現地調査やフィールドワークといったことには多少覚えがあるつもりではございましたが、日々の業務で現地へ赴くと、その奥深さには大変驚かされます。大学で学んできたこととは全

く違う角度からのアプローチであり、地図でみればたかが青い線一本のことなのですが、現地ではこんなにも多くの人々の営みやコミュニケーションが綿密に形成されていることに日々驚かされるとともに、この仕事の難しさ、おもしろさを感じます。

私は大学を卒業後、海外産マゲロを輸入し、国内の各市場へ卸したり、通販サイトを運営し、海産物を小売りしたりしている会社に一度就職しました。輸入部門ではフロント業務、国内通販部門ではバックエンド業務を約2年半務めたのち退職し、当改良区に転職いたしました。前職とは全く異なるフィールドであり、仕事内容も似ても似つかないものではありますが、ご指導ご鞭撻を頂きながら自己を成長させ、様々な面で貢献できるよう精進して参る所存ですので何卒よろしくお願いいたします。



表紙写真 「ふくしま むらの輝き2024」写真コンテスト  
「かかしさん、こんにちは。」横山 良男 さん

